【7月13日】第60回東西四大学演奏会他　情報断片９

(2011/07/13 水曜日 17:16:43 JST) - 投稿者 webmaster - 最終更新日 (2011/07/18 月曜日 14:12:23 JST)

? ? 情報断片（2011年9号）????????????????????????????????????? Latvija編集長　徳田　浩? 暑中お見舞い申し上げます?　　?いや～暑いですね。会員各位及びこのサぅ箸鬚翰　困い討い覲　佑某瓦　簷　　颪た修珪紊欧泙后　笋呂覆襪戮　　蕁爾鮒世韻覆い茲Δ謀慘呂靴泙靴燭　△海　2週間余り、夏風邪をこじらせて、微熱、喉・関節の痛み、咳が続いて散々でした。その上、特別に親しくしていたグリークラブの後輩で元ボニージャックスの大町正人君が、10年余の闘病生活に終止符を打ち、7月8日未明に死去して更に落ち込んでしまいました。一昨日、最後の別れをしてきましたが、このままでは久し振りに出演を決めた大阪でのOB東西四連に万全の体調で臨めるかどうか、いささか不安です。練習は欠かさず参加していますが、もう一度、心身ともギヤチェンジして頑張りたいと思います。? ? 多くの方から&ldquo;近頃コンサートのことが掲載されませんね？&rdquo;とメールなどを頂いています。ささやかな原稿でも期待されるのはとても嬉しい限りです。アクセスが50万件に近づいてくるといささか責任も感じます。相変わらず演奏会はよく聴いていますが、実は某日、ほぼ完成した原稿を一瞬の気のゆるみでパソコンから消失して呆然とし、体調悪化も伴って暫く気力まで無くしてもう一度書くことを躊躇していました。? 今年も大満足できた東西四連演奏会?　　? それぞれ100年以上の伝統を持つ東西四大学が、（かつて）自ら&ldquo;ビック４&rdquo;と自称したこの演奏会は、これまで数々の歴史に残る名演を披露してきた。今年は60回の節目を迎えた（7月3日・昭和女子大学人見記念講堂）が、今年も各大学が全力投球で完全燃焼して大満足した。早稲田を除き、近年は各クラブとも部員不足に悩み続けているが、それを感じさせない熱演が続いた。改めて伝統の素晴らしさを痛感し、じ～んとする感動を味わった。何と60回記念に、合同演奏は男声だけの「第九」4楽章を演奏し度肝を抜かれた。ソリストのソプラノ、アルト以外は全て男声（賛助出演の早稲田大学交響楽団はコンマス以下３分の２が女性だが）。でも、これはこれでメンバー一人一人の強い思いが伝わってきて素晴らしい感動を呼んだ。ブラボーの嵐が鳴り止まなかった（編曲：轟千尋）。ベートーベンが聴いても、男子大学生の心意気にきっと大満足したに違いないと思った。指揮者に小久保大輔氏を起用したことも素敵な選択だった（四連演奏会の最大も功績者ともいえる故福永陽一郎氏の孫）。祖父のお供で度々聴いた四連演奏会が彼の音楽の原点だった。以下は当日のプログラムからの抄録。『祖父の最後の四連となった同志社の「ピエロ」はもとより、コバケン早稲田の自由闊達な「さす若」、畑中ワグネルの熟れに熟れた「Liebeslieder」、北村関学の新機軸だった「コーダイ」&hellip;、それぞれの個性が高水準で火花を散らすその様は中学生にとってあまりにも刺激が強すぎた。残念ながら私には東西四連に参加できるだけの学力がなかった。しかし、人生は分からぬもので、今回の合同ステージにお声掛けを頂いた。自らこの大舞台に役不足を百も承知していたが、そのためらいより「今の四連」を学生の皆さんと共有できる喜びが遥かに上回り、二つ返事で承諾させて頂いた&hellip;&hellip;』。そして今、男声だけで第九を歌う意義をしっかり述べた。&ldquo;誰が歌ってもその強靭な精神が損なわれることはない！&rdquo;。? 【各クラブの寸評（演奏順）】? 同志社グリークラブ?? 30名が３列でステージ一杯に広がるフォーメーションで、同声三部合唱とピアノによる「永訣の朝」（作詩:宮沢賢治、作曲：西村朗）を演奏。指揮：伊東惠司、ピアノ：萩原吉樹。とにかく30名一人ひとりが100パーセントの力を振り絞って歌いきった。歌いすぎ？と感じる部分もあったが、ボリュームでも他校に負けないという気迫が伝わって演奏に引き込まれた。この魅力的な作品を男声では初めて聴いたが、女声とは全く違うイメージに仕上げ、新鮮な熱演だった。? 慶應義塾ワグネル・ソサィイエティー男声合唱団 ? 1年生も若干オンステし、東京六連より多い34名が「中勘助の詩から」（作曲：多田武彦）を演奏。指揮：佐藤正浩。作品の詩情をよく表現したが、こじんまりとそつなくまとめた感じ。この作品のソロは部員が担当すると理解していたが、プロのテノール（小貫岩夫）が声を抑えて部員と見事に同化して音楽的に成功していた。今年の慶應は、ベースパートの豊かな声量と音楽性に比べてテノールがやや輝きに欠けた。? 関西学院グリークラブ? 「青いメッセージ」（作詩：草野心平、作曲：高嶋みどり）を指揮：広瀬康夫、ピアノ：前田勝則で、伝統の関学グリーに新たな１ページを加えたような好演で魅了された。オンステ数も50名を上回り、かなり難解なリズム・ハーモニーの部分も一糸乱れぬ演奏を続ける中で、随所にぞくぞくする関学らしいハーモニーも響かせた。何よりも深い音楽性に感歎した。ブラボー！だ。ちなみにこの作品は、1984年の四連で早稲田グリーが100余名で初演した。山田一雄の指揮、アンリ・ピュイグ・ロジェのピアノで、当時、作品・演奏とも大きな話題を呼んだ。ふと同じ作品の関早競演を聴きたい気がした。? 早稲田大学グリークラブ? 相変わらず80名を上回るオンステ数で、会場にふとため息も漏れる。今回は「方舟」（作詩：大岡信、作曲：木下牧子）を期待の若手、高谷光信の指揮で演奏（ピアノ：寺本沙綾香）。幻想の世界、空虚感、浮遊感、海辺の情景などを女性らしくキメ細かく描いた作品を、終盤までは声も抑え気味に、多様な音楽の世界を情感豊かに表現した。この日の早稲田は声・ハーモニーに多彩な色が感じられた。世界の終りを予感させる終曲の静寂を切り裂くような響きは早稲田グリーの真骨頂で、表現の多様性をしっかり感じさせる熱演だった。関学に続いて、ブラボー！だ。? ? 合同演奏が終ったステージ上で、各校がストーム演奏。第2回から4回まで出演した超OBの私は、元気あふれる若者たちを孫を見ているような気持でいつまでも眺めていた。超満員の聴衆を最後まで楽しませた素敵な演奏会だった。? ? 多彩な早稲田グリーOBの各種演奏会?　　早稲田グリーのOBは、年代、地域などに分かれて多彩な演奏活動を続けているが、今年も、本サイト既報の「稲門グリークラブ・シニア会第11回定演」（4月16日）をはじめ、「横浜稲門グリークラブ第6回定演」（6月4日・神奈川県民小ホール）、「東京稲門グリークラブ5月の風コンサート」（5月8日・北とぴあ・つつじホール）、「倶楽部グリー・ハーバード大学クロコディロスとのジョイントコンサート」（6月19日・帝京平成大沖永ホール）など、それぞれ賑々しく演奏会を開催した。若いグループは積極的に被災地で演奏活動も行った。? 横浜稲門グリークラブは独自のソフトなハーモニーを目指す30余名のグループで、?林光編曲の日本抒情歌曲集、?シューベルト男声合唱曲、?ヨーロッパの曲を演奏。最後にやや燃焼不足があったが、爽やかな演奏会だった。? 倶楽部グリーは1965年前後に卒業したOBが、丸山はるお君（1966年度学生指揮者）の洒落たアレンジによるポップス曲を歌う、ユニークな楽しいグループで在籍は約45名。この日は得意な筈のアメリカンソングを歌ったが、実質的主役のクロコディロスが同じ系列の曲を余りにも楽しく完璧な歌唱とパフォーマンスを披露したため、一寸霞んでしまったのは気の毒。比較すべきではないと思いながらつい比べてしまう。恒例になったこの演奏会は日本の歌を演奏した方が良いかもしれない。素敵な曲がいっぱいあるし、丸山君のアレンジで日本の良い歌をたくさん聴いてみたい。? 東京稲門グリークラブは、従来の（活動が分化する前の）稲門グリークラブの活動を引き継ぐ形で、活動を続けている。今年は?多田武彦「草野心平の詩から」、?American Favorites、?昭和のヒット曲と、比較的編曲もののポップス曲が多かったが、このグループにはもっとオリジナルの男声曲を歌って欲しい。? ? さらに今日、若手OBで固めた「早稲田大学グリークラブOBメンバーズ」が、同志社グリークラブOBシンガーズと初のジョイントコンサートを開催すると連絡が入った（2012年4月7日・杉並公会堂大ホール）。同じく若手で固めた同志社も大張り切りだという。早稲田は月下の一群第１集とシューベルト男声合唱曲を歌う。これからメンバーを集めて練習に入る。? ? 記念演奏会、OB四連、東京六連ＯＢなど、早稲田グリーOBを代表して出演する演奏会は、これら各地で活躍しているメンバーから希望者を募ってその都度チームを編成する。今回のOB四連は若い佐藤拓君（2003年卒・第1回ラトビア音楽の集いでテノール独唱した）が指揮するので、常連の他に若手出演者も多く、私は際立った最年長者。かなりハードな曲なので、本番前にくたばらなければ良いが。【5月31日】被災地復興支援合唱コンサートなど【5月17日】「祈り」録音に238名が参加 他【4月23日】音楽の限りない力　稲グリシニア会定演など 【3月31日】演奏会の中止と開催の情報 【3月19日】ラトビア 10万ラッツの義援金など【3月15日】東日本大震災による災害お見舞い? ? 第18回東西四大学OB合唱連盟演奏会のご案内? 2011年8月7日（日）14時開演? 大阪ザ・シンフォニーホール? 稲門グリークラブ「四つの仕事唄」（作曲：小山清茂）指揮：佐藤　拓新月会「黒人霊歌」指揮：広瀬康夫? 慶應ワグネルOB合唱団「尾崎喜八の詩から」（作曲：多田武彦）指揮：仲光　甫? クローバークラブ「水のいのち」（作曲：高田三郎）指揮：山下裕司　ピアノ：木下亜子? 合同演奏「岬の墓」（作曲：團伊玖磨）他　指揮：当間修一　ピアノ：木下亜子? ? ?